

2019年10月		
筆者	所属	千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室
	職名及び氏名	研究員 小野瀬 優哉
題名	南房総地域に適するレモン品種の選定	

苗の入手が容易であり、普及が見込まれる「リスボン」、「アレンユーレカ」、「クックユーレカ」及び「ビラフランカ」の4品種を露地圃場及び無加温施設で栽培し、品種特性から南房総地域における最適なレモン品種を選定したのでご紹介します。

樹体の生育は、露地及び無加温施設ともに「リスボン」が4品種中、最も旺盛で「ビラフランカ」が次に旺盛でした。露地においては早期成園化につながる特性となりえますが、無加温施設においては枝が天井に接するなど樹勢が強すぎると考えられます。

9分着色の時期は、露地では4品種とも12月下旬で差は見られませんでした。無加温施設では「アレンユーレカ」及び「クックユーレカ」が12月上旬に着色し、「リスボン」は12月下旬、「ビラフランカ」は翌年1月上旬に着色しました。

1樹当たりのM～3L果収量は露地では「クックユーレカ」が少なく、他は同程度でした。無加温施設では「リスボン」が最も多く、次いで「ビラフランカ」が多く、「クックユーレカ」が最も少なくなりました。

露地では、いずれの品種においてもかいよう病の発生が見られましたが、無加温施設ではいずれの品種もかいよう病の発生はありませんでした。

「アレンユーレカ」及び「クックユーレカ」は、露地及び無加温施設の両方において他の品種に比べて果汁歩合が高く、種子数は少なくなりました。

以上の結果より、露地栽培では樹体生育が4品種中、最も良好で早期成園化につながる「リスボン」が適しています。また、無加温施設栽培では樹勢が落ち着き、収量が多く果実品質も良い「アレンユーレカ」が適しています。

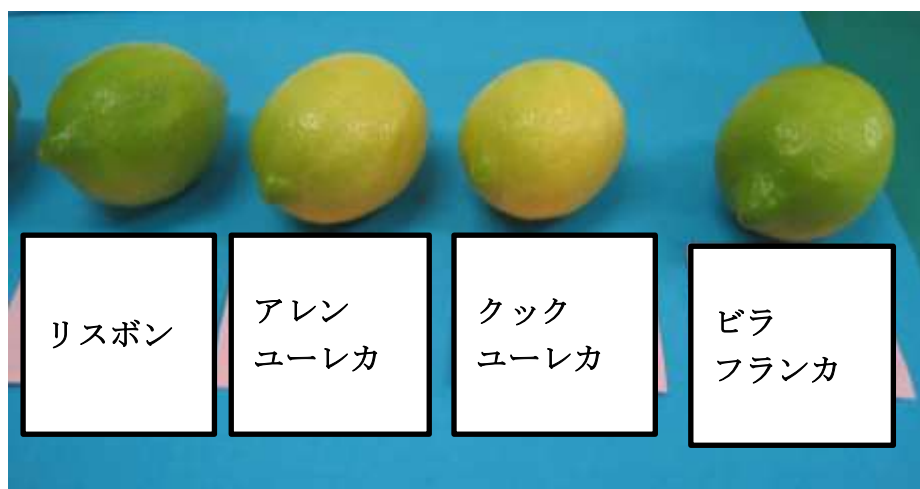


写真 平成30年11月12日収穫のレモン4品種（施設栽培）

注）「アレンユーレカ」及び「クックユーレカ」の着色が早い